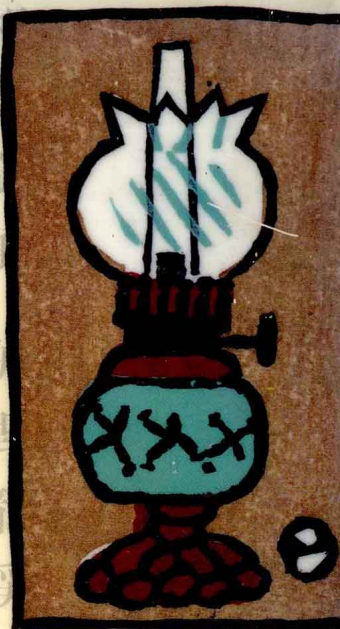
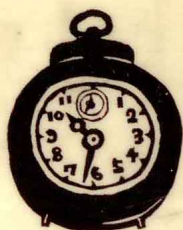


明治文学アルバム



河竹黒陽	田岡嶺雲	宮崎湖処子	蒲原有明	島村抱月	東海散士	坪内逍遙	巖谷小波	幸田露伴	斎藤緑雨	徳富蘆花
三遊亭黒陽	広津岡嶺雲	与謝崎湖処子	上田敏小	長島村抱月	末東海散士	二東海散士	江坪内逍遙	森巖谷小波	徳幸田露伴	国斎藤緑雨
長塚節	近松秋江	樋口一葉	星徳富蘆花	柳						



明治文学アルバム

新潮日本文学アルバム 別巻

竹盛天雄

協力者

泉名月
伊臣第一郎
宇田健
尾山藤仁
加納一朗
川端秀子
小宮恒子
斎藤茂太
志賀直吉
島崎菊助
相馬文子
田山瑞穂
徳田道子
中根誠
中村光夫
夏目純一
広津桃子

飛田良文
福田清人
堀越真一
松森務
森田殷史
柳澤真次郎
与謝野光
岩波書店
鷗外記念
本郷図書館
神奈川近代文学館
河出書房新社
慶応義塾大学
図書館
筑摩書房

津和野町
教育委員会
東京大学法学部
明治新聞雑誌文庫
明治村
早稲田大学
図書館
早稲田大学
演劇博物館

編集協力
日本近代文学館
株式会社木挽社

新潮日本文学アルバム 別巻1
明治文学アルバム

一九八六年一〇月二〇日印刷
一九八六年一〇月二五日発行

発行者 佐藤亮一

発行所 株式会社 新潮社

東京都新宿区矢来町七一

郵便番号 一六二一

電話(業務部) 03-2661-5111

(編集部) 03-2661-5411

振替東京四一八〇八

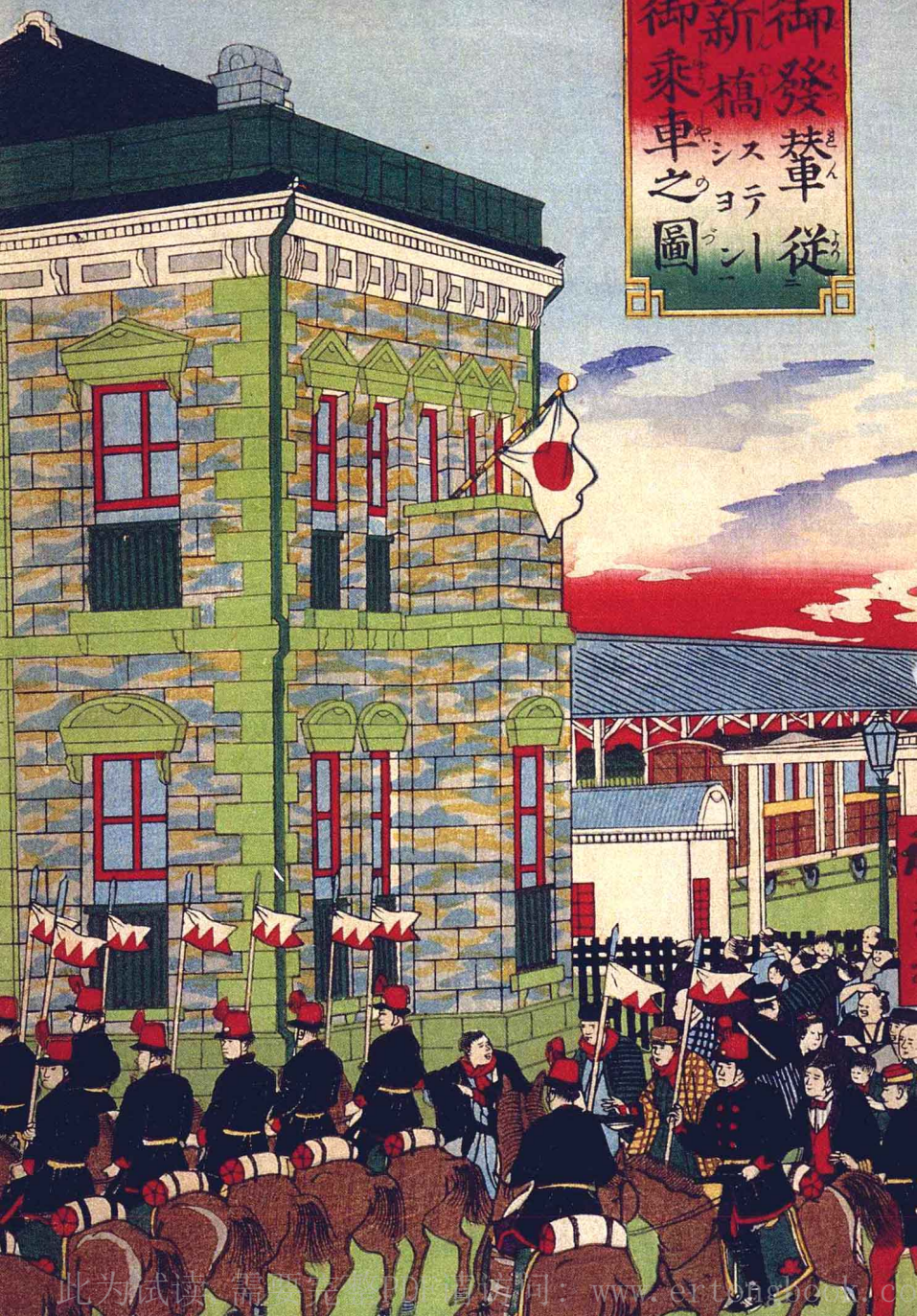
印刷 大日本印刷株式会社

製本 加藤製本株式会社

定価 一〇〇円

乱丁・落丁本は、御面倒ですが、小社通信係宛
御送付下さい。送料小社負担にてお取り替え
いたします。

御發轎從
新橋ステーション
御乘車之圖



兩國橋及淺草橋真圖



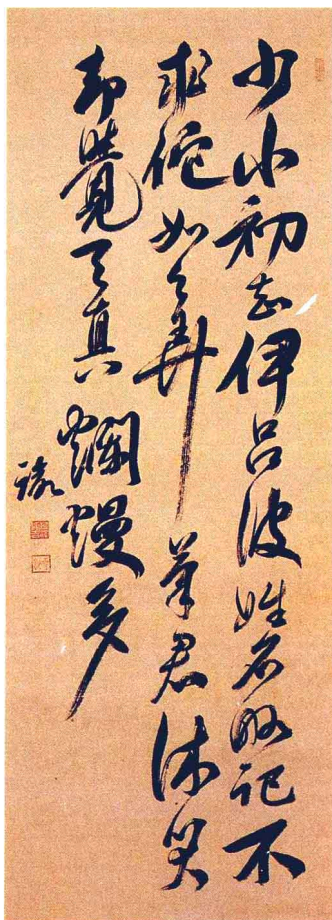
井上探景(安治)画『兩國橋及浅草橋真図』(明治10年)



近岡善次郎画『慶応義塾三田演説館』



小林清親画『第一回内国勧業博覧会・瓦斯館図』(明治10年)



福沢諭吉の書

前ページ／三代広重画『明治天皇御発
量新橋ステーション従り御発車之図』

西洋道中膝栗毛航条

一、概直に東域に至ると、昔度貨を諸に販とす。其州も、第海を中
 五十三、彈、丹波は作、島土、島に、双、航、毛、栗、毛、の、唄、い、者、櫻、花、の、海、流、を、逆、航、し、
 毛、栗、毛、の、男、く、其、化、の、航、の、西、洋、を、中、第、に、金、の、航、作、の、丹、子、を、逆、回、
 生、地、の、河、空、に、金、貨、を、頭、頭、百、兩、に、歸、し、先、往、西、上、の、鬼、鹿、毛、栗、毛、の、海、流、
 航、然、航、の、目、に、金、を、逆、回、し、丹、回、の、丹、子、を、海、流、の、如、く、海、流、を、逆、回、
 馬、羽、僧、並、も、三、金、を、逆、回、し、金、貨、者、の、海、流、に、よ、り、は、航、船、の、傍、に、航、船、を、
 海、流、と、雷、に、應、じ、才、ト、喜、喜、ハ、初、次、の、海、流、の、海、流、に、半、の、數、
 口、信、あ、り、航、海上、の、逆、光、く、水、の、海、流、を、唯、一、口、に、海、流、に、航、
 原、年、作、者、 假、名、恒、魯、文、一、し、り、

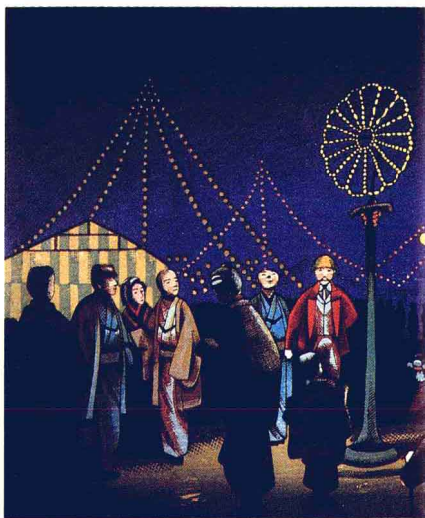


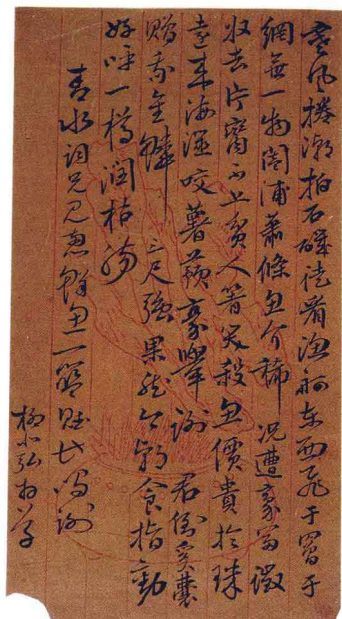
假名恒魯文の書、惶々(河鍋)晚齋画『西洋道中膝栗毛航条』。「口上ならぬ航海上の逆巻く水の筋立を唯一口づつ演(のべ)るになん」とある

假名恒魯文原稿『慶応二年春季浅草福井街にて』

此の原稿は、假名恒魯文の書、惶々(河鍋)晚齋画『西洋道中膝栗毛航条』の原稿である。この原稿は、慶応二年春季浅草福井街にて書かれたものである。この原稿は、假名恒魯文の書、惶々(河鍋)晚齋画『西洋道中膝栗毛航条』の原稿である。この原稿は、慶応二年春季浅草福井街にて書かれたものである。

假名恒魯文原稿『慶応二年春季浅草福井街にて』





成島柳北の書



井上安治画『柳橋』風景(明治15~20年)

東京向島の長命寺境内にある成島柳北の碑。
心ない人のしわざか、鼻の先が欠けている



坪内逍遙の書と画「双柿舎画」。双柿舎は熱海の逍遙別邸



山外山正

初めは女の身

空打過客むし雲ハ

和比呂子廿五

臨
たきや
あ
あ
あ

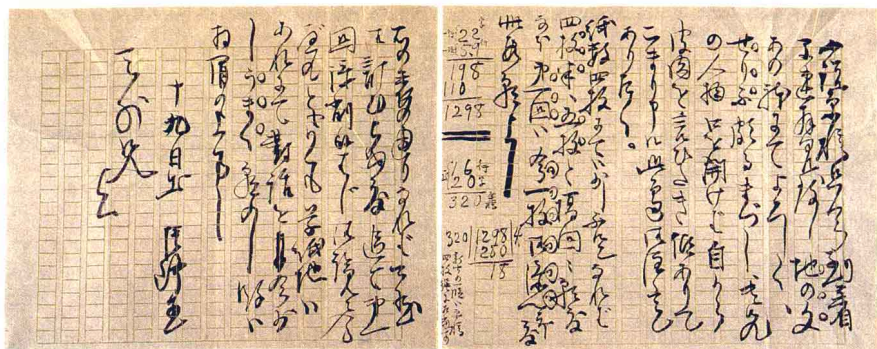
『新体詩抄』に収録

[illegible]

筆の入った『マクベス』原稿

八日 晴
雲の影が
山に映る

七
六
五
四
三
二
一



尾崎紅葉書簡(小杉天外宛)

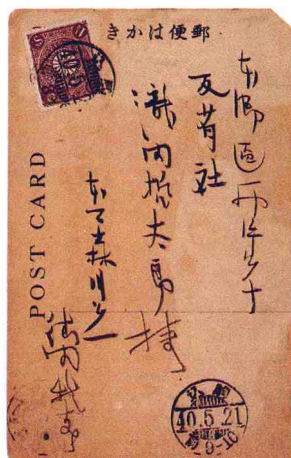


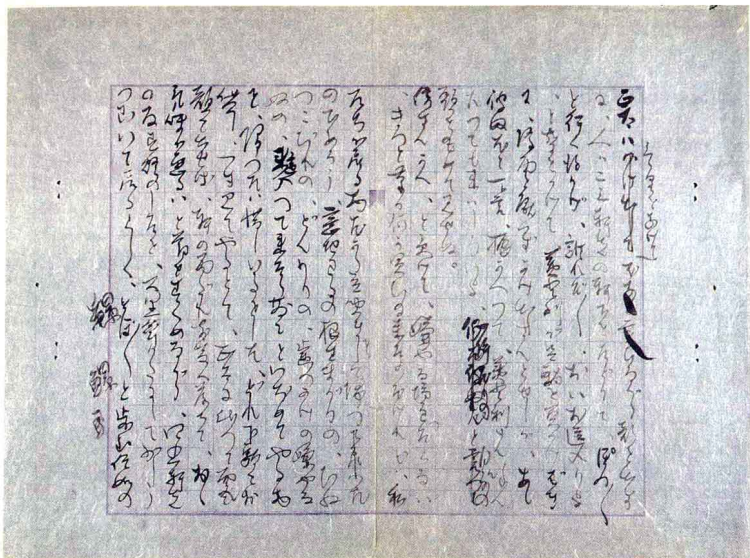
泉鏡花の短冊「木槿垣萩の花垣むかひあひ」

尾崎紅葉「伽羅枕」口絵(武内桂舟画)

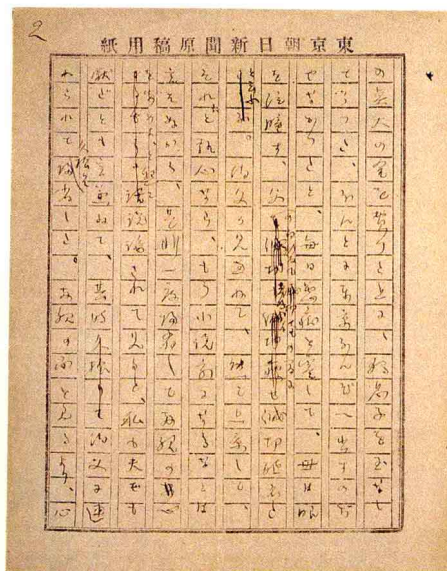


徳田秋声はがき(滝田楊蔭宛、明治40年5月21日)

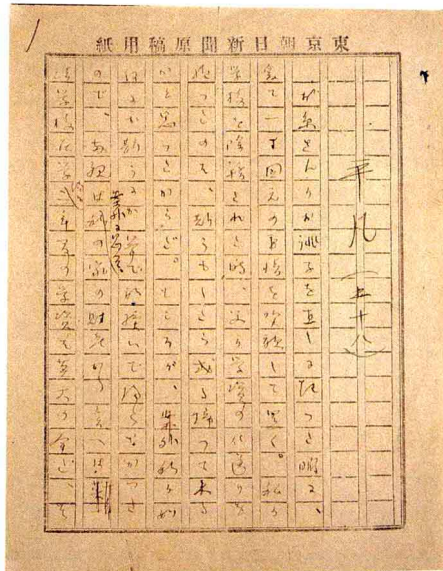




樋口一葉『たけくらべ』草稿



二葉亭四迷『平凡』原稿



小林清親画「日清戦争・威海衛上陸進軍之図」（明治28年）

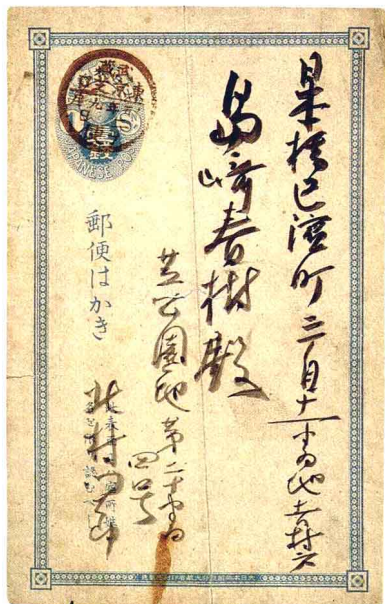


島崎藤村の故郷・長野県馬籠



此頃より雨早連なり。いづれかの可なり
 用ゐるゝとてしきとてしき
 大和君に寄附介めたり。一快事には
 けり。上り来る。往きて。輪庵にて。内侍ら申上
 宣敷。序は。て。は。し。り。
 轉居。致し。せ。え。は。紅葉。鎮。は。能。楽。堂。の
 裡。に。て。暮。る。中。に。は。け。り。
 胃。は。日。前。に。け。き。五。日。夕。景。に。外。に。一。何。し。暖。火。前。

北村透谷はがき（島崎藤村宛、明治25年9月2日）





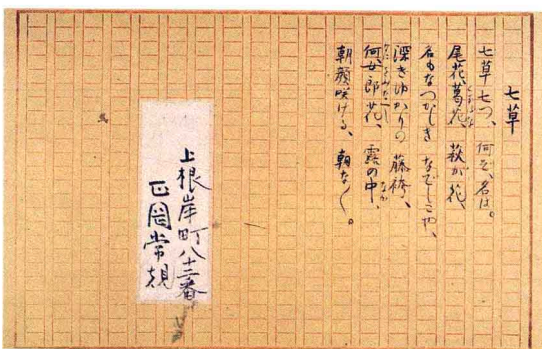
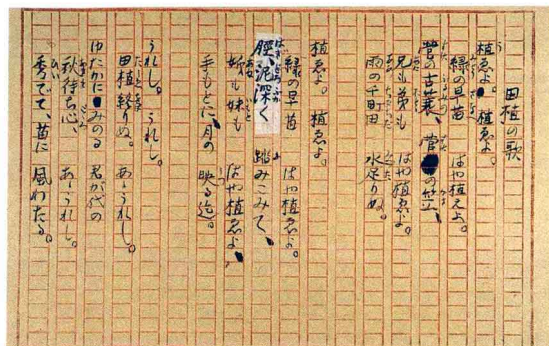
徳富蘆花画「逗子の図」(水彩)



東京三鷹にある国木田独歩
「山林に自由在す」の碑

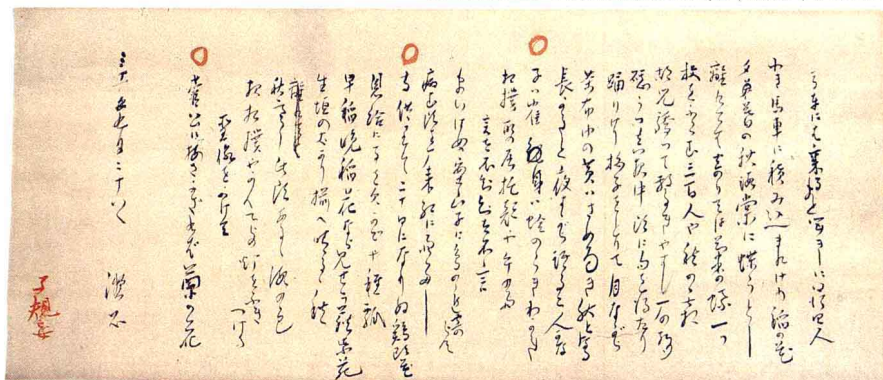


正岡子規「自画像」



→ 正岡子規「新体詩」原稿

正岡子規が朱筆を入れた夏目漱石の句稿（明治31年9月28日）



文づらひ

一三三
鵜外漁史

それか一の宮の催し玉ひし星が岡茶寮の獨逸會ひ洋行ぐ
りの將校次を遂うて身の上話せぬらんし時のもなりし
がこよひやお身が物語聞くべき皆なり。屋下も待あねて
おぼされちと促されて、お大尉となりて程あらじと見
ゆるお林といふ少年士官、口を叩へし巻烟草取と、火鉢の
中へ灰振落し、仔細らく身構と語りぬ。
こがサツセン軍團はつけられて、秋の演習おきしきり、ラ
アゲサツツ村の邊まで、術語は定まりたる敵といふ陣まつ

鵜外の書 高湛(タカシズ)の訓もあるは
鵜外森林太郎の諱

昔有道士求神仙 靈真下試心 確然千鈞巨石一髮懸
卧之石下十三年 存道忘身一試過名秦玉皇乃升天雲
氣冉々漸不見 留語弟子但精堅
車蘆州五古 源高湛

車二十音書

即日批評を
かゝりな特
よりなりあ
標上、二十音
目録書
以て



↑森鵜外「文づかひ」原稿冒頭(上)と「文づかひ」
初出の「新著百種」の表紙装幀下書き